

北鹿の学び舎から

2021-2022

OB、在校生、学校の今 ⑦

すぎだから続けられる。そして、これからも

今回ご紹介するのは平成31年3月に生産技術科を卒業し、地元大館市にある東光グループの中核、東光鉄工株式会社精密事業部に勤務する安保瑞穂さんです。

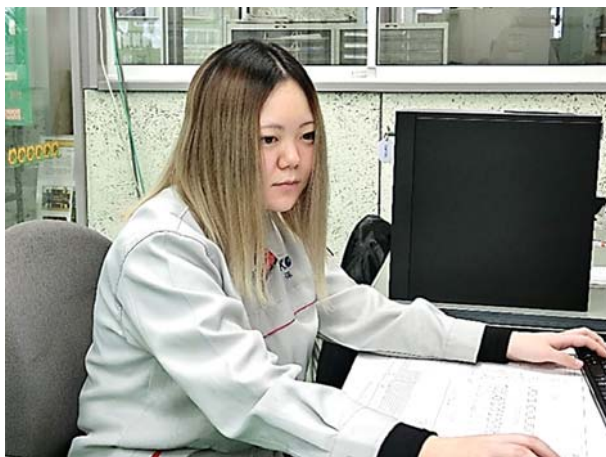
東光グループは先代会長の虻川東吉氏が昭和13年に東京都亀戸に東光製作所を開業したことに源を発し、創業80年

以上の歴史ある会社です。安保さんが所属する精密事業部は昭和61年にプレス金型分野への進出を機に設立され、『フィルム・粘着材プレス金型の東光』として業績を拡充させながら現在に至っています。入社した女性の方の記事が載っている、それを読んだときに女性でも、ものづくりで活躍できる会社があることが分かった。現在のワイヤー放電加工機をメインに高速マシニングセンターでの加工を担当している。入社して1年、成形金型の受注も担当していく予定です。新規の仕事になるので難しいと思いますが、短大で勉強したCAD/CAMが役立つと思います。もちろん使用するソフトウェアによって違いはありますが、授業で勉強した内容を、抵抗なく取り組むことができると思っています。

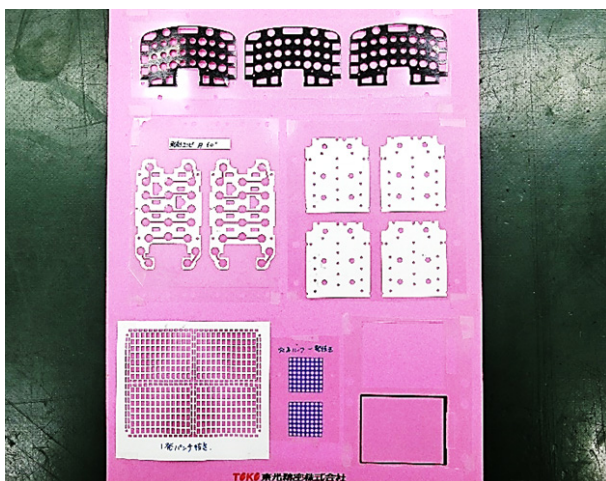
東光鉄工株式会社

安保 瑞穂さん

秋田職能短大 平成31年3月卒



安保瑞穂さん



金型で打ち抜かれた製品

引き継いだ時でした。同じ物でも作業の仕方は人によって違いがあります。自分なりに理解し、上司のアドバイスをきいて乗ることができました。職業人としての経験は浅いので断言できませんが、前述した通り女性でも活躍できる環境だと思っています。上司や同僚などと気軽に相談もできますし、自分で考え、最後までやらせてもらえます。もちろん責任も負うことになっていきますが、仕事の幅が増えていくのが楽しく感じられます。また、設計から加工、組合制作実習で、その成果がよくなって、出来た金型での試作も表われてくると思います。

材料の選択から設計・製図、加工方法、組立てに使われる機械要素の知識など、勉強しなければ何も作れません。これが仕事となれば、良い物をつくることは当たり前のこと、お客様の納期に間に合わせるため、いかに効率よく作業をするかが大事になってきます。指示されるのを待つのではなく、自ら積極的に工夫しながら作業を進めていくことが求められます。結果としてコストダウンにも繋がります。」

在学中は成績も良く、実習など興味深く取り組み、自治会役員として積極的に活動する姿や技能検定、競技会参加のため放課後も練習する姿など印象的な場面が思い出されます。

入社して4年弱、彼女の話の中に職業人としての意識の高さ、社会人としての成長に驚きを感じます。まさしく、すぎだから続けられる。そして、これからも益々活躍されるものと確信を抱く次第です。

秋田職能短大 生産技術科 佐藤 久美